



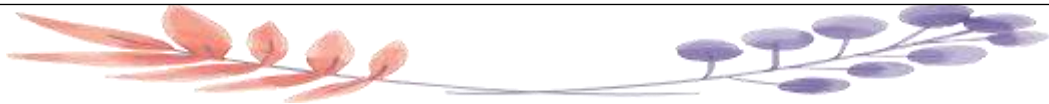
## 紙媒体としての本の価値について考える

作新学院大学 経営学部 准教授 石川 智

近年は情報化の進展に伴い、“スマホ”一つで様々な情報が入手できる時代になっているが、その影響から紙媒体のニーズが少なくなりつつある。以前まで重要な情報源であった新聞も、ほとんどのニュースがweb上で確認できるようになったことから、年々発行部数は減少している。また、書籍や漫画、小説などにおいても電子化が進んだことにより、紙媒体の売上は減少している。

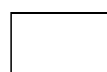
こうした社会変化の中で、果たして紙媒体としての本は不要になっていくのだろうか。過去にスタヴァンゲル大学のアン・マンゲン氏は、紙媒体と電子書籍の違いにより、どのような影響があるのか実験を行った。その結果、紙媒体を読んだ被験者の方が、記憶の定着や文章の理解度により効果があったこと報告された。そして、こうした結果になった理由として、「読者は視覚的なものに加えて、本を指でめくるといふ触覚的な感覚を持つことが記憶の定着などの助けになった」と推論した。電子書籍に慣れていない被験者が多かった影響もあると考えられるが、非常に興味深い結果である。

かくいう私も集中して読み込みたい時は電子書籍よりも紙媒体を選ぶ。読者により好みが変わる部分もあるが、おそらく本が不要になることはないだろう。とはいえ電子書籍の普及により、そのニーズが少なくなることはやむを得ない。そうした中で今後も紙媒体ならではの本の価値について考えていくことが必要になるだろう。そのためにも学生の皆さんにはぜひ図書館を利用してほしい。



## 図書館開館カレンダー 6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



午前 9 : 00 ~ 午後 6 : 00



午前 9 : 00 ~ 午後 1 : 30



休館日

# 絵本 この一冊

図書館の珠玉の  
一冊を紹介します

## てぶくろ ウクライナ民話

エウゲーニー・E・ラチョフ/絵 うちだりさこ/訳 請求記号 E/Ra

これは1965年に出版された古い絵本です。本学図書館では1976年から読み継がれています。

雪の日におじいさんが落としていった片方の手袋を、ネズミが見つめて、「ここで暮らすことにするわ」と言います。そこへカエルが跳ねてきて、「私も入れて」と一緒に暮らし始めます。そこへウサギが、次にはキツネが、という具合に住人がどんどん増えていきます。

「くいしんぼねずみ、ぴよんぴよんがえる、はやあしうさぎ、おしゃれぎつね」と繰り返されるテンポ良い語感に、思わず声に出して読みたくなることでしょう。小さな手袋に煙突が付いたり、窓が切られたりとカスタマイズされていく絵も楽しい。

たくさんの、いろいろな種類の動物が一つの世界に住むというこの物語が、ウクライナの民話であるということに、何か大切なメッセージを受け取ったような気持ちになりました。

## ラーニングコモンズ・エリアを活用しよう

6月8日・9日、図書館1階のグループ学習室において、図書館と情報センターのアルバイト学生による研修会を開催しました。

学生たちは、各自の作成した PowerPoint を使って、自己紹介や課題の発表を行いました。



図書館ではラーニングコモンズ・エリアの充実に伴い、貸出用タブレット PC やマルチプレゼンター、可動式の机・椅子などを用意しています。

学生同士のグループワークやプレゼンテーションにぜひご活用ください。



作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

TEL : 028-670-3652 FAX : 028-670-3619

E-mail : [tosyo@sakushin-uac.jp](mailto:tosyo@sakushin-uac.jp)

URL : <https://www.sakushin-uac.jp/library/>